

令和7年度 小倉南区事業概要



曾根干潟

小倉南区役所

目次

1	小倉南区について	
(1)	小倉南区の紹介	・・・ 1
(2)	北九州市の基本構想・基本計画（新ビジョン）	・・・ 3
(3)	小倉南区のまちづくり	・・・ 5
2	小倉南区の魅力向上と活性化につなげる主な施策・事務事業 ～3つの重点戦略と「成長と幸福の好循環」～	
I	「稼げるまち」の実現	・・・ 7
II	「彩りのあるまち」の実現	・・・ 10
III	「安らぐまち」の実現	・・・ 15
3	小倉南区役所各課業務一覧	・・・ 22
4	小倉南区のみどころ	
(1)	観光スポット	・・・ 25
(2)	食の魅力	・・・ 29
(3)	伝統芸能	・・・ 31
(4)	イベントカレンダー	・・・ 35
5	資料編	・・・ 36

1 小倉南区について

(1) 小倉南区の紹介

【概況】

本市最大の面積を持つ小倉南区は、日本有数のカルスト台地で天然記念物の平尾台をはじめ、カブトガニ等の希少生物が多く生息する曽根干潟など、多彩で豊富な自然に恵まれています。農林水産業も盛んで、全国的に有名な合馬たけのこをはじめ、大葉春菊、小倉牛、豊前海一粒かきなど多彩な特産品も魅力的です。

地域の歴史は古く、古墳などの史跡が多く残されており、楽や神楽、盆踊、神幸行事には無形民俗文化財に指定されているものも多く、地域において大切に受け継がれています。

一方で、昭和60年1月の北九州モノレール開業をはじめ、幹線道路の整備など交通網が拡充されたことで大規模宅地開発が進み、人口は市内で2番目、平均年齢は最も若い区となっています。

近年では、北部九州が自動車産業の拠点として発展する中で、区内の北九州臨空産業団地や北九州空港跡地産業団地等において自動車関連企業の立地が進んでいます。また、東九州自動車道の開通（北九州～宮崎）や北九州空港での韓国や中国への国際貨物定期便運航など、都市交通機能が一層充実してきています。

令和5年9月には曽根東臨海スポーツ公園が全面供用開始し、ソラランド平尾台（平尾台自然の郷）での施設の充実など区の新たな魅力も増しています。また北九州空港の滑走路延伸（3,000m化）が令和9年8月運用開始に向け着工（令和5年12月）し、更なる需要の拡大が見込まれています。

このように、小倉南区は豊かな自然と伝統が息づくまちであるとともに、新しい産業の立地が進むなど、自然・伝統・産業が調和したまちとして、今後ますます発展が期待されています。



横代神楽



平尾台



合馬の竹林



北九州空港



北九州モノレール



曽根の神幸神事

【成り立ち】

昭和49年（1974年）4月1日、小倉区が南北に分かれて「小倉南区」が誕生しました。令和6年4月1日には、区制50周年を迎えました。

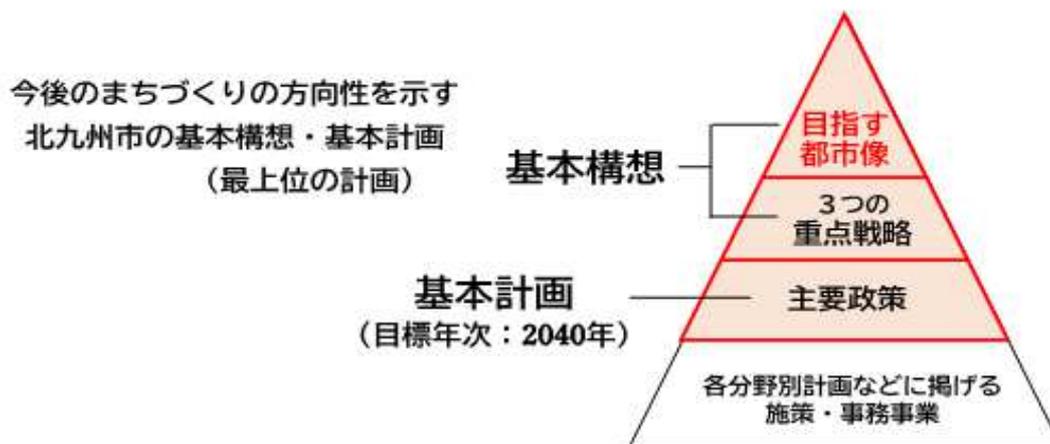
昭和12年9月 1日	企救町が小倉市と合併
昭和16年4月 1日	西谷村と中谷村が小倉市と合併
昭和17年5月15日	曾根町が小倉市と合併
昭和23年9月10日	東谷村が小倉市と合併
昭和38年2月10日	五市が合併し、北九州市となる
昭和38年4月 1日	北九州市が政令指定都市となり区制施行(小倉区)
昭和49年4月 1日	小倉区が小倉北区と小倉南区に分区し、小倉南区が誕生



(2)北九州市の基本構想・基本計画（新ビジョン）

◆策定：令和6年3月策定

北九州市・新ビジョンとは



目指す都市像

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を体現する

グローバル挑戦都市・北九州市

3つの重点戦略と「成長と幸福の好循環」

目指す都市像を実現するための
3つの重点戦略

- I 「稼げるまち」の実現
- II 「彩りあるまち」の実現
- III 「安らぐまち」の実現

循環の起点（最優先課題）



7つの個性が輝くまちづくり

地域の個性が輝く魅力あるまちづくり+区域を超えた地域間の連携

→ 北九州市全体の魅力向上・活性化



(3) 小倉南区のまちづくり（北九州市基本計画より抜粋）

都市機能や住環境、歴史、文化、自然、食、地域コミュニティなど、小倉南区が持つ地域資源を生かし、磨き上げることで、個性が輝く、魅力あるまちづくりを進めていきます。さらに、区域を越えた地域間の連携を図りながら、基本構想・基本計画で掲げた主要政策の実現により、小倉南区及び北九州市全体の魅力向上と活性化につなげていきます。

小倉南区は、市内で人口が2番目に多く、最も面積が大きな区です。山、川、海の多彩な自然と田園が広がり、農林水産業が盛んな一方で、自動車関連産業をはじめとした各種企業が立地しています。また、利便性の高い交通網を背景に物流拠点としての重要性も高まっています。

北九州空港をはじめ、鉄道やモノレール、高速道路などの社会インフラが充実しており、沿線には良好な住宅地が広がっています。

① まちづくりの方向性

○豊かな自然を生かし、四季折々の景観や地域の歴史や文化を感じながら行うウォーキングなどにより、健康づくりや居場所づくりを推進し、元気でいきいきとした生活が楽しめるまちをつくります。

○平尾台や曾根干潟などの自然を生かし、希少な体験ができる観光と学びの場の形成を図ります。さらに地元の特産品や伝統、文化の魅力を加え、質の高い地域ブランドを創出することにより、内外のファンを増やし、交流人口や関係人口の増加及び観光の振興を図ります。

○各地域の祭りやイベントを通じて、世代を超えて人と人が「つながろう」という想いを力に変えるとともに、二地域居住の促進などにより、関係人口を増やすことで、地域課題の解決を図り、ずっと住んでいたいと思えるまちをつくります。

○広域道路網の高い物流機能を生かし、物流業や製造業に係る企業の誘致に取り組みます。また、北九州空港のゲートウェイ機能を生かし、「国内外との活発な交流を支える空港」と「九州・西中国の物流拠点空港」の実現に向けた取組を推進します。

② 地域資源・ポテンシャル

ア 産業

九州縦貫自動車道や東九州自動車道、北九州都市高速道路、国道10号など、東西南北を結ぶ広域道路ネットワークの結節点となっており、その高い物流機能を背景に、臨空産業団地や北九州空港跡地産業団地などには、自動車産業関連企業が集積しています。

現在、恒見朽網線などの整備により、さらなる物流機能の強化に向けた基盤づくりを進めています。

北九州空港は、24時間利用が可能な海上空港であり、将来活用可能な広大な土地を有しています。その特性を生かし、旅客便の誘致に加え、大型貨物機の

長距離運航を可能とする滑走路の 3,000m化など、物流拠点化に向けた取組が進んでいます。

イ 教育・地域

北九州市立大学をはじめ、高度な技術を学ぶ九州職業能力開発大学校（九州ポリテクカレッジ）や北九州工業高等専門学校など、多くの教育機関が集まっています。

また、全国的にも珍しい一歩上をいく子育ての取組である「プレイセンター」をはじめ、子育てや健康づくりを通して人がつながり、人と地域が育つ素地があります。

ウ 歴史・文化

曽根古墳群などの史跡が多く残されているほか、昔から農業が盛んな地域であったことから、雨乞いや豊作祈願を芸能化した「楽（がく）」や神々に奉納する神楽、盆踊り、神幸行事などの伝統行事が地域に受け継がれています。また、小倉南区の誕生とともに始まった「まつりみなみ」は、老若男女が楽しめるイベントとして大切な地域交流の場となっています。

エ 観光・自然・食

北九州国定公園に指定され、日本有数のカルスト台地として有名な平尾台では、春の野焼き、新緑、秋のすすき野などの四季の変化に加え、鍾乳洞探検（ケイビング）やトレイルランニングなど、他では味わえないアクティビティを楽しむことができます。

また、キャンプ場、アスレチックなどの施設を備えた「ソラランド平尾台」や民泊施設などがあり、平尾台一帯は様々な体験ができる観光地として人気が高まっています。

ほかにも、カブトガニや渡り鳥などの希少生物の宝庫である曽根干潟や合馬の竹林、菅生の滝、長野緑地など、多様で豊かな自然に恵まれています。農林水産業も盛んで、全国的に有名な「合馬たけのこ」をはじめ、「小倉牛」や「豊前海一粒かき」などは、北九州市の特産品として人気を集めています。